

# 平成14年度 履修要項

## 建築学科

平成14年4月

### 1. 履修に関する一般事項

履修要覧 建築学科を卒業するために必要な条件は、入学時に渡された「学部要覧」および「建築学科履修の手引き」に詳しく記載されている。これは大学と諸君との間の、教育に関する“契約”が述べられている重要文書だから、卒業まで大事に取り扱い、年度初めには必ず読み直すべきものである。これら履修に関する諸規定は、諸君が卒業するまで変更することなく適用される。なお、本年度の3年次編入生には、平成12年度の履修規定が適用される。

これらの履修規定はカリキュラムの変更にもともなって改訂されることがある。平成5年度および平成10年度の

改正によって、1～5年次生、6～8年次生では、それぞれ履修規定・設置科目が異なっているので注意すること。特に平成10年度から実施されている新カリキュラムでは大幅な改訂が行われている。6年次以上の学生が1～4年次設置科目を受講する場合は、ガイダンス時に配布される新旧科目振替表によってよく確認の上、受講計画を立てることが必要である。

相互履修および単位互換制度 平成7年度から、日本大学相互履修制度が運用されている。これは、所定の手続きを経て各学部の指定する講義を相互に履修できるようにしたもので、合格すれば単位が修得できる。受講可能科目、申請手続き等はガイダンス時にクラス担任から説明がある。建築学科では、このようにして修得した単位を「卒業に必要な単位」には算入しないが、高学年で時間に余裕があれば、芸術、生産工、経済学部等の講義を受講して知識を広めるとよい。単位互換制度は、理工学部と短期大学部間で、それぞれ指定された講義を相互に履修できるようにしたもので、平成8年度から実施されている。上の相互履修制度を短大にまで広げたものと考えればよい。詳細情報は教務課またはクラス担任から伝えられる。

他学科設置科目の受講 2年次生は40単位以上、3年次生は85単位以上、4年次生は125単位以上を修得し、受講計画に余裕があって、クラス担任から必要と認められた場合、受講科目担当師の許可を得て、建築学科以外の学科に設置された基礎教育および専門教育科目を受講することができる（履修要覧参照）。

受講届 毎年新学期の受講計画は、指定された期限までに受講届を提出し、教務課に登録されたことを確認しなければならない。登録していない科目の試験を受けて合格しても単位は認められない。届出・確認の手続きは必ず自分の責任において行い、控えをとっておくこと。

教職課程の受講 中学校および高等学校の教員免許を取得希望の者は、教職課程科目を受講することができる。履修条件その他の詳細は、学部要覧の履修要項 教職課程 を参照されたい。

平成14年度クラス担任一覧

| 学年    | クラス担任    | 研究室No.・電話番号（内線）                                  |
|-------|----------|--|
| 1年    | 岡村 武士    | 船・大型構造物試験棟 047-469(5366)<br>駿・946 03-3259-0(928) |
|       | 石垣 秀典    | 駿・454 03-3259-0(695)                             |
|       | A 朝倉 徳雄  | 船・体育館研究室G 047-469(5298)                          |
|       | " 山崎 晋   | 船・543-A 047-469(5234)                            |
|       | B 稲井田次郎  | 船・543-C 047-469(5234)                            |
|       | " 小川 貴   | 船・体育館研究室D 047-469(5327)                          |
|       | C 中川 浩   | 船・541-A 047-469(5230)                            |
| 2年    | " 石井 直紀  | 船・544 047-469(5234)                              |
|       | 1組 早川 眞  | 駿・453 03-3259-0(707)                             |
|       | " 八藤後 猛  | 駿・965 03-3259-0(712)                             |
|       | 2組 石田 道孝 | 駿・965 03-3259-0(715)                             |
| 3年    | " 富田 隆太  | 駿・583-A 03-3259-0(699)                           |
|       | 1組 今村 雅樹 | 駿・589 03-3259-0(706)                             |
|       | " 蜂巣 浩生  | 駿・453-B 03-3259-0(707)                           |
|       | 2組 岡田 章  | 駿・439-B 03-3259-0(710)                           |
| 4年    | " 渡辺 富雄  | 駿・966 03-3259-0(967)                             |
|       | 1組 井上 勝夫 | 駿・582-A 03-3259-0(418)                           |
|       | " 佐藤 直樹  | 駿・579-A 03-3259-0(711)                           |
|       | 2組 宇杉 和夫 | 駿・589-B 03-3259-0(462)                           |
|       | " 大川 三雄  | 駿・588-A 03-3259-0(718)                           |
| 5年次以上 | 斉藤 俊一    | 駿・431-A 03-3259-0(704)                           |

大学院理工学研究科建築学専攻（修士）

|    |       |                        |
|----|-------|------------------------|
| 1年 | 清水 五郎 | 駿・439-A 03-3259-0(698) |
| 2年 | 若色 峰郎 | 駿・966 03-3259-0(714)   |

大学院理工学研究科不動産科学専攻（修士）

|    |       |                      |
|----|-------|----------------------|
| 1年 | 宇於崎勝也 | 駿・577 03-3259-0(700) |
| 2年 | 根上 彰生 | 駿・577 03-3259-0(700) |

### 1年次生

○履修要項と学科の概要について

1年次生は、ガイダンスの時に配布される平成14年度

学部要覧に示された履修要覧に従って卒業まで学修する。この学部要覧には、履修規定、履修方法のほかに、各年次別の授業科目、単位、履修順序、受講手続きの方法、受講計画上の注意、教職課程の履修方法および学生生活に関する情報が掲載されているので、卒業まで大事に保管し、よく検討して学修計画を立てること。また各授業科目の内容は、学部要覧の学科目概要および学期初めに科目担当教員から配布される授業計画（シラバス）で知ることができる。

建築学科の概要や教育目標、学修方法、コース（建築学コースと企画経営コース）選択、その他については、ガイダンス当日に教室主任およびクラス担任の先生から説明がある。両コースの履修の詳細については別途配布する「建築学科履修の手引」を参照されたい。コースの選択・登録は2年次後期に行われる。

○総合教育・外国語・基礎教育・専門教育科目の履修について

時間割表を見るとわかるように、大学生にふさわしい人格形成のため、さらにこれから専門教育を受ける上で必要と思われる総合教育科目が1年次に設置されている。なかでも基礎教育科目の微分積分学、基礎物理学 および工業数学は専門教育の基礎となる重要な科目であるから、できるだけ1年次で単位を修得すること。

外国語科目は、英語を中心にして、第2外国語にドイツ語、フランス語、その他を選択するとよい。

また、1年次の専門基礎教育科目（専門教育を受ける上で基礎となる知識や学力を蓄えることを目標とした科目）として、建築概論、デザイン基礎、の必修3科目およびコンピュータリテラシ、情報処理の選択2科目、専門教育科目として建築基礎実験、建築の計画と技術、建築史概論、構造力学、構造力学演習 が設置されている。これらはすべて建築学の基礎であるから1年次ですべて受講するとよい。

1年次では40単位修得を目標に頑張してほしい。ただし、無計画に毎日5時限まで授業を組む必要はない。卒業までの4年間をどう過ごすかを十分に考えた上で、長期的な視野で受講計画を立てることをすすめる。

## 2年次生

諸君のメインキャンパスは船橋校舎だが、週1回、建築設計、と建築材料実験を駿河台校舎で受講してもらうことになる（1組：月、2組：木曜日）。すこし変則的なキャンパスの使い方、不便なことが多いと思うが、大学の施設拡充のために協力してもらいたい。

○専門教育科目の履修について

履修規定は入学時に配布した平成13年度(2001)学部要

覧による。2年次から本格的な専門教育課程に入る。教育効果を高めるために2クラスに分けて各専門科目を受講するように時間割が編成されている。クラスは学生番号が奇数の学生が1組、偶数の学生が2組である。諸君はそれぞれ該当するクラスの時割に従って、受講計画を立ててもらいたい。なお、クラスを変更した受講はできない。

2年次設置の専門教育科目はすべて、これから建築を学んでゆく上の基礎的な科目であるから、時間割に組まれたこれらの科目は、単位数からみても全部履修することが望ましい。とくに、印のついた16科目（企画経営コースも16科目）は「選択必修科目」である。「必修」と同様に考えて、受講してもらいたい。

カリキュラムの系統図や分類については、1年次のガイダンスで配布した「建築学科履修の手引」を再読して、各学科目の位置づけと相互の関連をよく検討した上で、選択科目を決めるとよい。なお、3年次終了までに卒業に必要な単位の約78%にあたる102単位以上を修得していないと、4年間で卒業できない。受講計画全般については、クラス担任が相談にのってくれる。

○基礎教育科目の受講について

2年次に設置されている基礎教育科目は、線形代数学、微分方程式、材料化学 の3科目8単位である。卒業条件としては、1年次設置の建築概論、デザイン基礎、等を含めて合計16単位以上を修得すればよい。受講計画上は、3、4年次の構造系専門科目の基礎として「微分方程式」、「材料化学」を、環境工学、都市計画、建築計画などの計画系専門科目の基礎として「線形代数学」の受講をすすめる。

○建築学コース、企画経営コースの選択と登録について

諸君は2年次後期に「建築学コース」か「企画経営コース」を選択・登録し、以後はそれぞれのコースのカリキュラムに従って、各学科目の選択・受講の計画を立てることになる。コース選択の方法は、後日クラス担任および企画経営コース担当の教員から説明がある。なお、前期に設置されている「不動産科学概論」は企画経営コースの入門的な内容で、両コースの学生がそれぞれ専門教育科目の一つとして受講できるようになっている。なお、企画経営コースのB系列専門科目は、コース選択が決定した後期に受講登録できる。

○建築設計、および建築材料実験の受講について

建築設計も実験も10数名の小グループに分けて行われるので、それぞれのガイダンスには必ず出席すること。駿河台校舎の実験室は手狭なので、各班ごとに時間をずらして各種実験が行われることが多い。実験の予定・準備する資料その他、各種の注意事項が、駿河台校舎5号館5階エレベータホールに掲示されるので、毎週月、木



○卒業研究着手条件について

諸君が来年度に卒業研究に着手するためには、卒業条件の単位数130単位の約78%にあたる102単位以上を今年度中に修得しなければならない。これは、単に3年次までに修得した単位の合計ではなく、卒業に必要な単位の合計が102以上なければならないので充分注意してほしい。この卒業研究着手条件は厳守され、例外はない。

また、次年度の卒業研究に十分な時間をかけて悔いのない大学生活をおくるためには、3年次終了までに修得する単位総数が、卒業条件として有効な単位だけでなくとも120単位以上あることが望ましい。

## 4年次生

4年次の新学期で最も大事なことは、諸君のそれまでの修得単位数によって当該年度に卒業する見込みがあるかどうかの判断が下されることである。卒業見込み者＝卒業研究着手者であり、大学生活最後の年度は卒業研究のテーマ設定と指導教員の選択から始まる。

本来ならば卒業研究指導の先生が決まり、しばらく研究室活動を行ってから、大学院進学や就職先など卒業後の進路について卒研指導の先生と相談するのが理想である。しかし、近頃の現実はどうもうまくゆかなくて、就職活動は2月、3年次の期末試験が終わるとすぐに始めざるを得ないようになってしまっている。そこで、積極的に建築教室の就職情報を見たり、企業のホームページ、D.M.を検討するなど、情報収集はできるだけ広い範囲で行い、進路について身近な先生がたや先輩、両親等に早めに相談するとよい。

デザイナー、構造デザイナー、企業の研究職など、将来、専門性の強い分野での活動を目指す諸君には、大学院博士前期課程（修士）への進学を勧める。最近の就職事情をみると、これらの分野への就職は大学院修了者が有利である。大学院進学は卒研指導の先生とできるだけ早く相談すること。ただし大学院進学希望者が一つの研究室に集中すると、一人の先生が指導できる大学院生の数は限られているから、その時点で進路の窓口が閉ざされてしまうことがある。建築教室内のこのような事情はクラス担任が一番正確に把握しているから、流言に惑わされず、クラス担任からの的確な情報を得るのがよい。卒業研究の研究室選択には、自分の専門を決める以外にもいろいろなファクターが関係する。

○専門教育科目の受講について

建築学コース4年次に設置されている専門科目は、2、3年次の専門科目70～75単位を修得した上で、諸君の将来の進路なども考慮して、表1に示す計画系、構造系の分類の中から選択して受講するとよい。受講科目が計

表1 4年次設置の専門教育科目の分類

| 環境・計画系      |     | 構造・材料・施工系   |     |
|-------------|-----|-------------|-----|
| 設計演習        | (2) | 構造設計        | (2) |
| 建築経済        | (2) | 測量及び実習      | (2) |
| 建築計画        | (2) | 特別講義(木造建築論) | (2) |
| 都市計画        | (2) | 構造デザイン      | (2) |
| 環境工学        | (2) | 構造解析法       | (2) |
| 建築設備演習      | (1) | 防災計画        | (2) |
| 特別講義(デザイン論) | (2) |             |     |
| 防災計画        | (2) |             |     |
| 計 15単位      |     | 計 12単位      |     |

(注)特別講義はどちらか一方のテーマを選択・受講する。測量及び実習、構造デザインは計画系の学生にも必要な科目である。

表2 建築実験の実験項目と担当者一覧

| 実験科目名と担当責任者                      | 実験項目と担当者  |
|----------------------------------|---|
| 建築基礎実験<br>(必修・1単位)<br>(岡村)       | 化学実験(一般・化学教室)<br>物理実験(一般・物理教室)<br>専門実験<br>振動実験(石丸,白井,森泉,石垣)<br>構造強度(齋藤(公),岡村,黒木)<br>風洞・測定法(三橋,下村,広部/中山) |
| 建築材料実験<br>(必修・1単位)<br>(三橋)       | セメント・コンクリート実験<br>(清水,中山,依田,飛内)<br>鋼材実験(平山,半貴,三橋,斉藤(俊))  |
| 建築環境実験<br>(必修・1単位)<br>(井上,橋本)    | 騒音実験(井上,橋本,吉村,富田)<br>設備実験(早川,八町,蜂巣)<br>光実験(関口,橋本,富田)  |
| 建築構造実験<br>(必修・1単位)<br>(齋藤(公),岡田) | 構造安定実験(齋藤(公),岡田,中島)<br>構造部材実験(白井,森泉,清水(泰))<br>土質実験(安達,山田)<br>(いずれか一方を選択)                                |

(注)各実験項目についての問い合わせは、各担当者の所属する研究室へ、実験項目の可否その他、総合的な質疑は各担当責任者に問い合わせる。

画・構造の両系にまたがってもよいが、自分の得意な分野を決めてそれを深めながら、時間の余裕があれば、広く知識を求めるとよい。

○建築学コースの専門教育科目に関する卒業条件

必修科目17単位、印の選択必修科目19科目以上を含むA系列選択科目50単位以上を含めて合計82単位以上。

たとえば3年次終了までに、卒業条件に合う専門科目の修得単位総数が70単位だったとすれば、4年次の必修科目として卒業研究4単位、卒業制作2単位、計6単位があるから、4年次で6単位以上を修得すればよいことになる。卒業条件130単位を満たすためには、この他どの科目区分からでも自由に選べる単位が6単位ある。これを仮に専門教育科目でカバーしようとするれば、6+6=12単位であり、4年次前期で十分に修得できる単位数である。

○企画経営コースの専門教育科目に関する卒業条件

必修科目17単位、印の選択必修科目の中からA系列18科目以上、B系列11科目以上を含めて82単位以上。

企画経営コース4年次設置の専門科目は、コース独自

のB系列科目がほとんどである。各自の卒業研究テーマとも関連づけて、クラス担任と相談のうえ選択するのがよい。

## 建築実験について

建築実験は、それぞれ10数名の班単位で行われる。各実験項目についての班分けや実施日程などは、別にプリントとして新学期の総合ガイダンス時にクラス担任から配布される。実験科目と実験項目、担当者一覧を表2に示す。

## 建築設計の受講について

建築設計は～までが必修で、3年次後期の設計演習と4年次前期の設計演習は選択である。設計演習は、将来、主として設計(デザイン)方面に進む学生を対象とした課題のほかに、インテリアやCADに興味をもつ人を対象とした課題によって構成されている。受講計画を立てる時には、自分の進路をよく考えてから選択してもらいたい。

ただし、建築学科を卒業後、実務経験2か年を経て受験することのできる1級建築士資格試験の設計製図の課題内容は、大学で建築設計までを修得していれば充分対応できる。

- 建築設計の各科目は、必修、選択ともに同時受講はできない。またデザイン基礎を、を修得しないで建築設計を、を、建築設計を、を修得しないで建築設計と設計演習を、そして建築設計と設計演習を修得しないで設計演習を受講することはできない。すなわち建築設計は、設置順に段階的に単位を修得しなければならない。
- その他、建築設計の受講に関する手続きの詳細は、学期初めに行う建築設計ガイダンスの際、配布するパンフレット「建築設計の課題及び案内」に記載してある。
- 建築設計関係科目に関する一般的な連絡は、5号館5階エレベータホールに掲示する。
- 本年度の建築設計関係科目の事務担当を表3に示す。

## 卒業研究について(各コース共通)

建築学科における卒業研究着手条件は、次のとおり。  
卒業に必要な科目区分別修得単位総数が102単位以上であること。この「卒業に必要な科目区分別修得単位総数」に含まれる専門教育科目以外の単位は、それぞれ科目区分ごとに、総合教育科目14単位、外国語科目10単位(英語6単位以上)、保健体育科目2単位、基礎教育科目16単位までとする。上の各科目区分内でそれ以上修得した

表3 平成14年度 建築設計担当者一覧

| 学年       | 科目             | 1組   | 2組  |
|----------|----------------|--|---|
| 1<br>(船) | デザイン基礎<br>(必修) | (水)<br>*柳田 武 大川 三雄<br>宇杉 和夫 渡辺 富雄<br>佐藤 直樹 近藤 康弘                         | (金)<br>*石田 道孝 重枝 豊<br>今村 雅樹 赤羽 輝臣<br>八藤後 猛 横山 聡                         |
|          | デザイン基礎<br>(必修) | (水)<br>*柳田 武 田島 夏樹<br>本杉 省三 安田 博道<br>佐藤 直樹 葦内 博史                         | (金)<br>*石田 道孝 内田 尚宏<br>宇杉 和夫 田中 雅美<br>八藤後 猛 中川 龍吾                       |
| 2<br>(駿) | 建築設計<br>(必修)   | (月)<br>*野村 歡 内田 尚宏<br>大川 三雄 城戸崎和佐<br>若色 峰郎 安田 博道<br>田島 夏樹<br>佐藤 慎也       | (木)<br>*宇杉 和夫 川口とし子<br>石田 道孝 中川 龍吾<br>本杉 省三 前田 光一<br>渡辺 富雄<br>渡辺 富雄     |
|          | 建築設計<br>(必修)   | (月) 赤羽 輝臣<br>*本杉 省三 奥田 孝次<br>宇杉 和夫 城戸崎和佐<br>杉 千春<br>佐藤 慎也 横山 聡           | (木) 川口とし子<br>*今村 雅樹 河辺 哲雄<br>渡辺 富雄 桑原 立郎<br>近藤 康弘<br>渡辺 富雄 前田 光一        |
| 3<br>(駿) | 建築設計<br>(必修)   | (水) 河辺 哲雄<br>*若色 峰郎 椎名 英三<br>今村 雅樹 杉 千春<br>高宮 真介 高橋 晶子<br>中村 弘道<br>佐藤 慎也 | (金) 奥田 孝次<br>*本杉 省三 桑原 立郎<br>関澤 勝一 アトリッドクライン<br>佐藤 光彦<br>田中 雅美<br>葦内 博史 |
|          | 設計演習<br>(選択)   | (水) 関澤 勝一 椎名 英三<br>若色 峰郎 中村 弘道<br>佐藤 光彦<br>上利 益弘<br>TA                   | (金) *高宮 真介 アトリッドクライン<br>今村 雅樹 高橋 寛<br>柳田 武 藤江 秀一<br>TA                  |
| 院        | 建築デザイン<br>(前期) | (土)<br>*若色 峰郎 今村 雅樹  | *根上 彰生<br>宇於崎勝也<br>嶋田 幸男  |
|          | 建築デザイン<br>(後期) | (土)<br>*高宮 真介 飯田 善彦  | 小泉 雅生 水谷 碩之   |

\*科目担当 内 事務担当

### ○4年次設置の特別講義の構成について

特別講義は、高宮真介教授の「デザイン論」と藤居秀男非常勤講師による「木造建築論」が併設されている。

高宮教授の「デザイン論」では、建築を設計する視点から、ルネッサンス以降、近現代に至る広い範囲で、建築思潮上重要と思われる作家と作品を重点的に取り上げて解説し、建築意匠を論ずる。特に、モダニズムの原点とその展開を概観するのが目標となっている。

一方の「木造建築論」の目指すところは、どのように建築をつくりあげるかという視点から、広く「木質構造建築」へアプローチする発想を養うことにある。わが国は伝統的に木造の国である。古来伝承されてきた構法に加えて、2×4構法(枠組壁構法)、丸太組構法、大断面集成材による大空間構法など、多様化する木質構造の本質に迫るのが本講座の目標である。

単位は、「卒業に必要な修得単位総数」には算入しない。  
この条件を満たした学生に対しては、理工学部より卒業見込証明書が発行される。

卒業研究着手条件を満足する学生は、平成14年1月に

配布された「駿建」のテーマを参考にして、自分の希望する研究室に卒業研究の申し込みをすることができる。

申し込みの方法などについては、クラス担任から4年次総合ガイダンスの際に詳しい説明がある。

## 卒業研究について

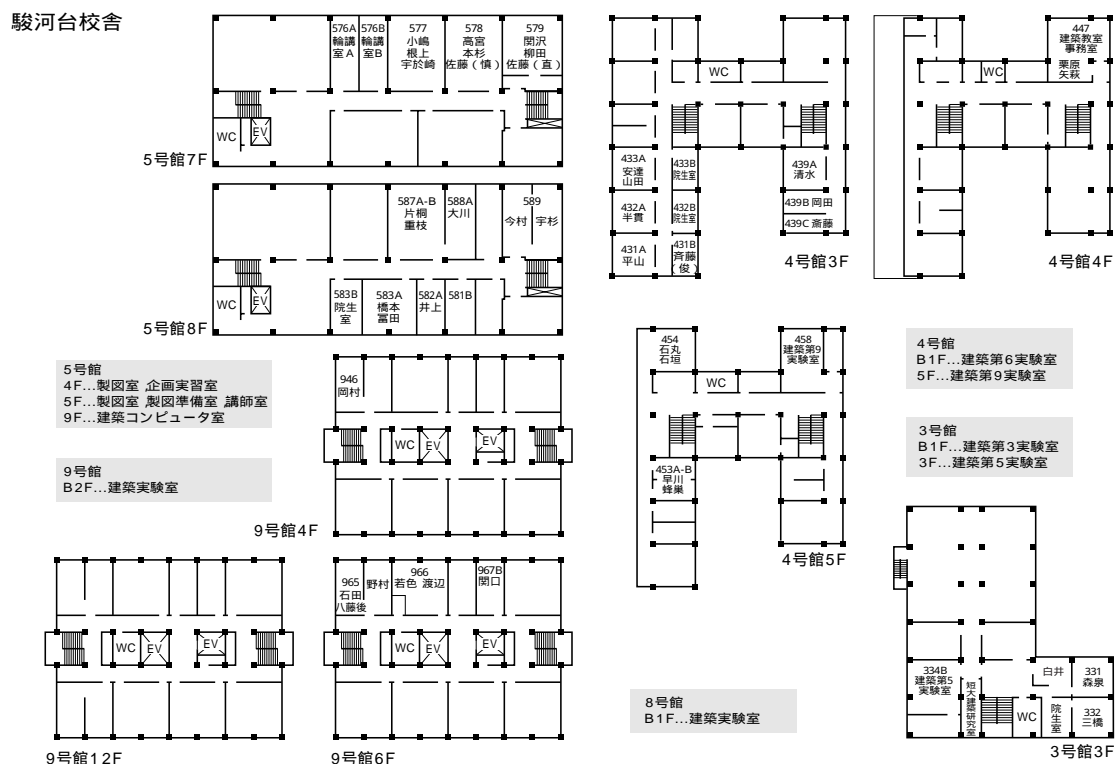
大学生活のしめくくりとして、卒業研究を通じて一人の先生と1年間ひとつのテーマで勉強することは、大学の専門教育のなかで最も意義あるもののひとつである。大学に入って1年、2年、3年、と多くの先生方の講義を聴くことによって、それぞれの先生のもの考え方を学ぶことは、もちろん、視野を広める上に有益なことであるが、大学生生活最後の仕上げの時期に膝を交えて先生と話し合うことのできる卒業研究は、勉強すること以外に人生に

関する諸問題も話し合える機会として、学生諸君にとって大切な場であると思う。したがって、建築教室としては、諸君の教育の仕上げの場として、卒業研究を最も大切な科目と考えていることを、まず念頭に置いてもらいたい。

卒業研究着手の心がまえや手続きについてはクラス担任から詳しい説明があるが、卒業研究について先生には、勉強のことはもちろん、就職の問題、さらにまた将来は結婚の問題といろいろとお世話になるものであり、学生諸君はこの卒業研究を完成させる過程を経て、ほんとうに大学生生活を有意義に終わることができるものと考えている。

## 建築教室関連マップ

### 駿河台校舎



### 船橋校舎

